



2017.8 No.23

産業医大通信

U O E H

産業医科大学通信

University of Occupational and
Environmental Health, Japan

学校法人 産業医科大学 広報企画室
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

TEL 093-603-1611 (代表)

<http://www.uoeh-u.ac.jp/>

2017年8月20日発行 (隔月20日発行)

- ◆就業能力の維持を目指した治療
- ◆がん治療と口腔機能管理
(口腔ケア) について



Contents

- ◆就業能力の維持を目指した治療
- ◆がん治療と口腔機能管理(口腔ケア)
について

テレビ出演のご紹介(6/26, 7/1)

報道機関で紹介された
産業医科大学(3/28~7/31)

Information

平成29年度
産業医科大学 がんに関する市民
公開講座のご案内(10/28)

介護施設「虹の丘」
デイサービス・ケアプランセンター
利用者募集



産業医科大学
モバイルサイト
こちらから!
<http://www.uoeh-u.ac.jp/>



大学内の風景(大学本館1号館、2号館)

就業能力の維持を目指した治療

公衆衛生学 准教授 藤野 善久

病気やけがをした際、治療の目的は症状を軽減したり、もしくは機能を回復したりすることです。このために、手術や投薬、リハビリテーションなどによる治療を行っていきます。しかしながら、病気の中には完全に症状を無くしてしまうことが難しいものや、例えば脳梗塞による麻痺など、機能を元通りにまで回復することが困難なものもあります。

実は、近年、病気の治療目標として、症状の軽減や機能の回復と同様に、就業能力を維持することを重要視するようになってきました。すなわち、痛みなどの症状が続いたり、麻痺などが十分に回復しなくとも、就業能力を維持することが臨床的な治療目標として重要であるとする考え方は、ここでいう就業能力の維持とは、医学的な処置のみならず、作業内容の変更など働き方の調整も含みます。

病気をされた労働者のなかには、仕事を休んだり、退職せざるを得なかったりした経験をした方が多くいます。例えば、関節リウマチの患者さんががんを経験した患者さんでは、約半数の方が、休職や退職を経験したとする報告があります。仕事を続けられない状況は、病気による困難に加えて、ご本人のみならずご家族にとっても、経済面や生活のうえで、大きな影響を与えます。そのような観点からも、治療の目標として、就業継続の重要性が指摘されるようになってきました。

さらに、就業を継続することそのものに、病気の回復や症状の軽減に治療的な効果が期待されるとする報告も出ています。例えば労働災害によって上肢に障害を受けた労働者を対象にした研究では、障害があってもそれが負担にならない業務に転換して職場復帰した人は、職場復帰できなかった人たちと比べて、痛みの自覚症状が軽減したと報告されています。また、関節リウマチの患者さんにおいては、仕事を継続することが身体的なQOL（クオリティ・オブ・ライフ、生活の質）に良い影響を与えていたとする報告もあります。この調査では、病気の重症度（炎症の検査値など）よりも、仕事を継続することの影響の方が、QOLに与える影響は強かったと報告しています。つまり、仕事を続けることの方が病気による痛みや身体の不自由さなどを克服しやすかったということ

です。

ところで、病気を経験した労働者が仕事を辞めるのは、病気による症状の辛さや重症度によることよりも、業務とのミスマッチによるところが大きいと考えられています。例えば、関節リウマチの患者さんの就業を阻害する要因を検証した研究では、休職や退職に関して、炎症の程度など病気の重症度の影響よりも、仕事の身体負荷や業務内容によるところが大きいと報告されています。すなわち、病気の重症度よりも、業務上の制約が大きいほど、就業を継続することが困難になると考えられています。一般的に、病気を抱えた労働者は、さまざまな業務上の制限を経験します。このようにして、できなくなった仕事や作業のことを、労働障害と呼ぶことにします。労働障害の中には、勤務中の作業の中断や、会議に出席できない、高所作業など特別な業務ができない、残業や出張ができないなどさまざまなものがあります。このような労働障害を経験する機会が増えると、労働時間の減少、転職、最終的には退職、失業などにつながっていきます。

以上のことから、病気を抱える労働者の就業能力を維持するためには、症状の軽減や機能回復と同時に、業務内容や働き方の調整を行うことが極めて大切になってきます。このような調整こそが、まさに産業医科大学が育成する産業医に期待されている重要な業務の一つです。さらに、患者さんの就業能力の維持を臨床的な治療目標の一つとする考え方にもとづき、産業医科大学の多くの診療科では、就業能力を重視した治療計画や仕事をするうえでのアドバイスを実施しています。

このように、仕事と治療の両立のため、職場（事業主）では主治医の先生の助言を患者さん（＝労働者）に役立てていただくような工夫が始まっています。産業医科大学では、職場復帰に関する情報提供書が診療科ごとに用意しており、必要に応じて利用することが可能です。また、専門の産業医や医療職がいない職場において簡易に取り扱えるように工夫がなされた、就業に関する意見についての書式も開発されています。HPからダウンロードしてご利用いただけますので、ぜひご活用ください（図1）。

(<http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/kosyueis/ffw/>)



● 主治医の先生へのご案内

この診断書は、患者様が治療と就労を両立できるように、主治医の先生から患者様へ働き方の助言・指導をお願いするものです。

- 本文書は、患者様に対して発行されるものです。
- 本文書は、診断書として取り扱いをお願いいたします。
(診療報酬上の「診療情報提供書」としての保険請求はできません)
- 発行にかかる費用は、患者様にご請求ください。

● 患者（従業員）様へのご案内

- この診断書は、主治医の先生から、あなた様に発行されるものです。働き方のご参考にしてください。
- この診断書の発行にかかる費用は、医療機関からあなた様に請求されます。
※会社や健康保険組合が費用を負担する場合がありますので、ご確認ください。
- この診断書を、会社に提出するためには、あなたの同意が必要です。

情報開示についての本人の同意書 ※この欄には、主治医の先生のご記入は不要です。

私は、本文書を _____ (提出先名称) に提出し開示することに同意します。

平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

住所 _____

氏名 _____

診断書（就業に関する意見）

患者氏名 _____ 性別 男・ 女

生年月日 _____ 年 月 日生

住所 _____

診断名（特に就業に影響するもの） _____

入院の有無 _____ 有・ 無

手術（カテーテルを含む）の有無 _____ 有・ 無

就業に関する主治医意見 概ね通常勤務可・ 就業配慮が必要

↓

● 就業配慮が必要な場合の内容（該当業務がある場合はご記入下さい）

労働時間に関する事項 (残業時間の制限や、短縮勤務など)	<input type="checkbox"/> 概ね通常勤務可・ <input type="checkbox"/> 就業配慮が必要
車両運転に関する事項	<input type="checkbox"/> 概ね通常勤務可・ <input type="checkbox"/> 就業配慮が必要
重量物に関する事項	<input type="checkbox"/> 概ね通常勤務可・ <input type="checkbox"/> 就業配慮が必要
危険作業（高所作業など）に関する事項	<input type="checkbox"/> 概ね通常勤務可・ <input type="checkbox"/> 就業配慮が必要
業務内容、業務量、作業条件、担当業務の変更などに関する事項	<input type="checkbox"/> 概ね通常勤務可・ <input type="checkbox"/> 就業配慮が必要

上記措置に関する期間の目安 _____ 年 月 日頃まで

上記期間終了後の対応について 概ね通常勤務可・ 再評価が必要

● その他の指導内容についてご記載ください。

記入日 _____ 医師氏名 _____ 医療機関名 _____

図1 厚生労働省労災疾病臨床研究補助金事業
「主治医による就業支援指導・情報提供による治療と就業への効果に関する検証」研究班

また、健康上の問題を抱えながら仕事を続けられている患者さん（＝労働者）が、どの程度仕事にお困りなのかを評価するための指標も開発されています（図2）。治療経過を把握するうえで、検査値などと合わせて、労働機能障害の程度を継続的に把握し、治療に有効活用していただきたいと考えています。また、既に臨床研究や治験への活用も始まっており、今後さらに、労働機能の評価を目的とした医学研究が普及することに期待します。

(<http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/kosyueis/wfun/>)

日本人労働者の約8割が、何らかの健康上の問題を抱えて就業しているとされています。定年雇用の延長など、高齢就業者の増加を背景に、病気や症状を持って働く方が増えつつあります。今後は臨床現場において、症状や

検査値の改善のみでなく、就業能力の維持についても臨床的重要性が増すものと期待されます。

図2 産業医科大学版労働機能障害調査票
(Work Functioning Impairment Scale: WFun)

普段の体調の良い時と比べて、あなたは現在、お仕事に関して次のようなことが、どのくらいありますか。

	ほぼ毎日 ある	週に2日 以上	週に1日 以上	月に1日 以上	まったく ない
社交的に振る舞えなかった	○	○	○	○	○
ていねいに仕事をすることができなかった	○	○	○	○	○
考えがまとまらなかった	○	○	○	○	○
仕事を中断する回数が増えた	○	○	○	○	○
仕事がうまくいかないと感じた	○	○	○	○	○
冷静に判断することができなかった	○	○	○	○	○
自発的に仕事ができなかった	○	○	○	○	○

「ほぼ毎日ある」～「まったくない」を各5～1点とし、合計点で評価する。

がん治療と口腔機能管理（口腔ケア）について

歯科・口腔外科 診療科長 大矢 亮一

口腔機能管理（口腔ケア）とは？

口腔機能管理（口腔ケア）は医科と歯科が連携して行うがん治療の支持療法のひとつです。その目的は、治療合併症の予防・減少、術後入院期間の短縮（図1）、治療完遂率の向上、菌血症の減少などを通じて医療資源投入量の減少を図ることです（図2）。

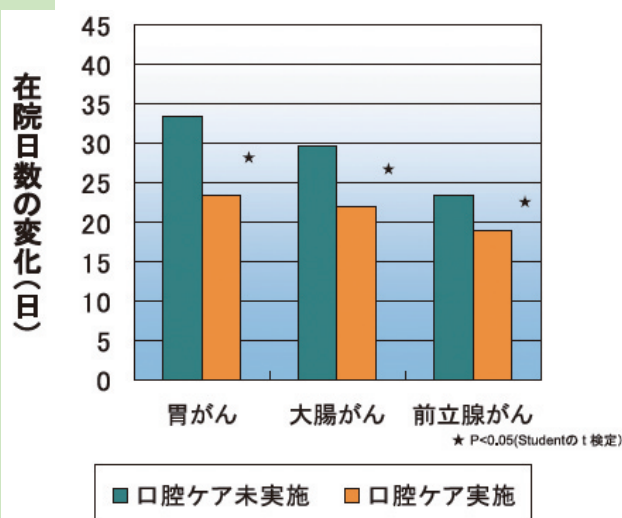


図1 口腔ケアの有無と在院日数の変化

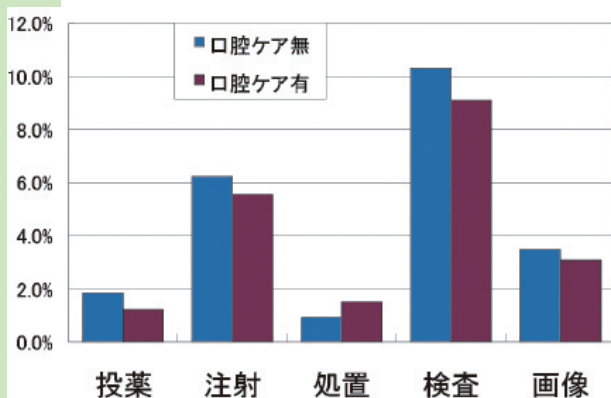


図2 口腔ケアによる医療資源投入量の変化

がんの治療（手術、放射線治療および抗がん剤治療）は身体の免疫抵抗力を低下させるため、口腔内に歯周炎など慢性菌性感染病巣の急性転化や菌血症の出現、口腔粘膜炎の重篤化などをもたらします。このような口腔内環境の悪化は術後肺炎等の全身合併症の発生や咀嚼・嚥下機能にも悪影響をもたらすとされています。

口腔機能管理の実際？

実際に行われる口腔機能管理（口腔ケア）の内容を手術の場合と化学療法、放射線療法の場合に分けて示します。

がんの手術の場合

手術前に歯石や歯垢除去等の歯周ケア、舌苔除去、セルフケア指導を行います。術後は安静や絶食のためにセルフケア困難となり口腔内細菌が増殖しやすくなるため、口腔粘膜の保清と湿潤が中心となります（図3、4）。

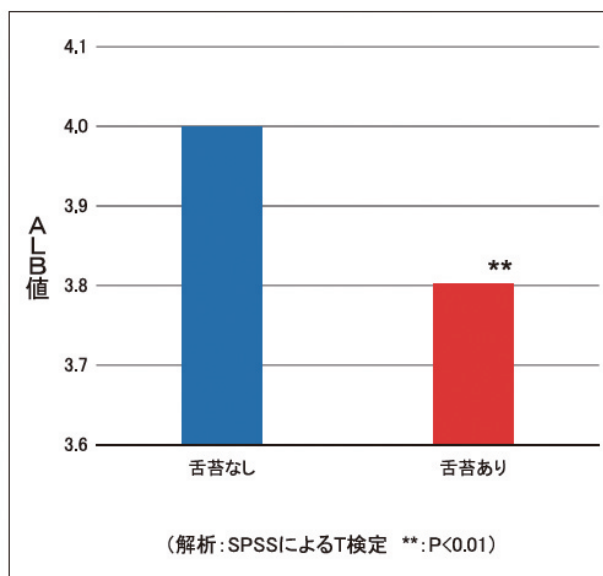


図3 舌苔の有無と血清アルブミン値の関係

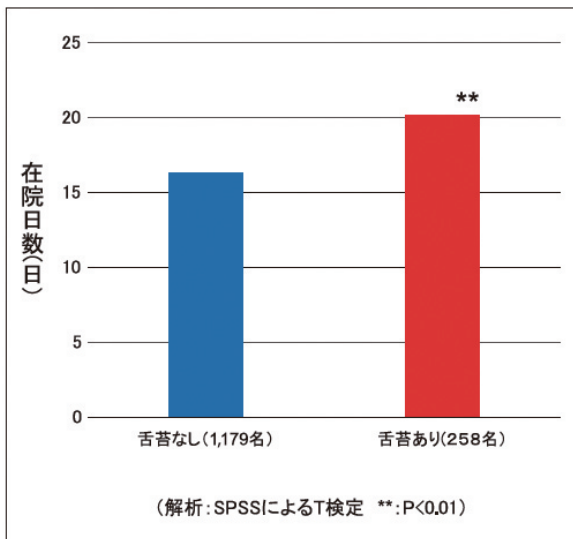


図4 舌苔の有無と在院日数の関係

全身麻酔時の気管内挿管に伴う歯の損傷や脱落を予防するために、歯の固定やトゥースガードの製作と装着を行います(図5)。



図5 トゥースガード装着前(上)、装着後(下)

この他、歯に関連した慢性口腔内感染病巣の除去や義歯の調整を行い、術後の経口摂取再開に向けた口腔内の環境づくりを行います。

がんの化学療法、放射線治療の場合

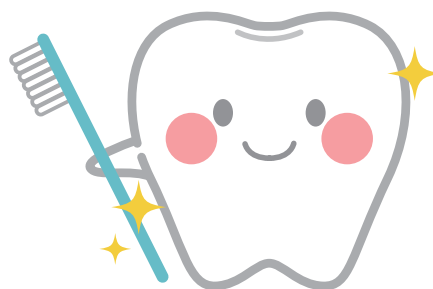
前述の歯周ケアや舌苔除去等に加えて、口腔内の歯性感染病巣の除去が重要です。この慢性感染病巣は治療により免疫能力が低下すると急性転化し、菌血症や敗血症のきっかけになることがあるからです。

治療の副作用として口腔粘膜炎が生じ、疼痛増悪から食事摂取困難となり低栄養状態になりますので、早期の診断と治療が肝要です。

頭頸部癌の放射線治療により顎骨骨髄炎が発生することがあります。放射線照射後に行われた抜歯等の歯科外科処置後に生じますので、放射線治療前に顎骨への侵襲的処置は完了しておくことが大切です。

薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)は、転移性骨腫瘍の治療薬であるビスホスホネート製剤やデノスマブ投与中に抜歯等の骨露出を伴う処置をきっかけに顎骨壊死が生じる病変です。これも薬剤の投与開始前に歯科外科処置を済ませておくことが大切です。

周術期の口腔機能管理(口腔ケア)はがんの支持療法の一つとして有用であることが認識されていますので、臨床各科からの積極的な患者様紹介をよろしくお願い致します。



6.26 健康開発科学 大和浩先生が「アサデス。」に出演

6月26日（月）午前6時からKBCテレビで放送された「アサデス。」の「朝イチスcoop! 天神“迷惑喫煙者の実態”」のコーナーに、健康開発科学 大和浩先生が出演されました。



7.1 不整脈先端治療学 安部治彦先生が「とっても健康らんど」に出演

7月1日（土）午前11時25分からKBCテレビで失神をテーマに放送された「とっても健康らんど」に、不整脈先端治療学 安部治彦先生が出演されました。



報道機関で紹介された産業医科大学

本学ホームページにも最新情報を掲載しています。「産業医大 報道」で検索してください。(TOP→報道機関への出演・掲載)

〈平成29年3月28日(火)～7月31日(月)〉 (広告、開催案内等の記事除く)

日時	媒体名	内容	所属	氏名
3月28日(火) 4月1日(土) 4月3日(月) 4月12日(水)	3月31日(金) 4月2日(日) 4月7日(金) 5月1日(月) 共同通信による配信	受動喫煙対策強化へ 働く人いる限り全面禁煙 《掲載新聞名》 〔岐阜新聞 岩手日報 新潟日報〕 〔山陰中央新聞 秋田魁新報 愛媛新聞〕 〔千葉日報 中国新聞 高知新聞〕	健康開発科学	大和 浩
5月30日(火) 18:10~19:00他	N H K 総合 「ニュースブリック北九州」他	介護ロボ開発に向け介護職員の行動など分析	人間工学	泉 博之
6月4日(日) 22:00~22:54	B S - T B S 「外国人記者は見た+」	受動喫煙大国 ニッポン	健康開発科学	大和 浩
6月7日(水)	読 売 新 聞	病院の実力(九州・山口編) 腰痛	産業医科大学病院	
6月8日(木) 15:50~19:00 (関東地方のみ)	日 本 テ レ ビ 「news every.」	ナゼナニっ! 受動喫煙	健康開発科学	大和 浩
6月9日(金)	西 日 本 新 聞	介護ロボ導入前に講習会	人間工学	泉 博之
6月23日(金)	朝日新聞(東京版)	受動喫煙防止 歩み遅く	健康開発科学	大和 浩
6月26日(月) 6:00~8:00	K B C テ レ ビ 「アサデス。」	朝イチスクープ! 天神“迷惑喫煙者”の実態	健康開発科学	大和 浩
6月29日(木) 18:10~19:00他	N H K 総合 「ニュースブリック北九州」他	“働き方改革”なるか 介護ロボット 期待と課題	人間工学	泉 博之
7月1日(土) 11:25~11:40	K B C テ レ ビ 「とって健康らんど」	失神	不整脈先端治療学	安部 治彦
7月2日(日) 7月5日(水)	読 売 新 聞	病院の実力(全国版)(九州・山口編) 婦人科がん	産業医科大学病院	
7月7日(金) 16:50~18:55	C B C テ レ ビ (愛知、岐阜、三重) 「イッポウ」	それでも手放せない? やってくる禁煙社会	健康開発科学	大和 浩
7月17日(月) 4:00~5:50	日 本 テ レ ビ 「Oh a! 4 NEWS LIVE」	寝る時も注意! 夜の熱中症	産業保健管理学	堀江 正知
7月20日(木) 18:15~19:00	M B S 毎日放送 (関西) 「VOICE」	危険!?残った煙が子どもに影響 “3次”受動喫煙とは	健康開発科学	大和 浩
7月25日(火) 13:55~17:50	M B S 毎日放送 (関西) 「ちちんぷいぷい」	健康を脅かす3次喫煙	健康開発科学	大和 浩
7月26日(水)	西 日 本 新 聞	介護ロボ導入へ討論 施設側の態勢整備など指摘	人間工学	泉 博之
7月31日(月)	日 本 経 済 新 聞	日経実力病院調査 肺がん治療の実力病院として	産業医科大学病院	

市民公開講座、介護施設「虹の丘」のご案内

平成29年度 産業医科大学 がんに関する市民公開講座のご案内

がんに関する市民公開講座を次のとおり開催いたしますので、ご案内いたします。

日 時：平成29年10月28日（土） 14：00～16：00

場 所：産業医科大学 ラマツィーニホール 小ホール

参加費：無料（なるべく事前のお申し込みをお願いします）

テーマ：産業医科大学病院 がん治療最前線！「子宮頸がん」



【プログラム】

○ご挨拶 がんセンター長 西澤 茂

○講 演

- | | | |
|-----------------------|-------------|-------|
| 1 子宮頸がん（総論）と外科的治療について | 産婦人科 診療科長 | 蜂須賀 徹 |
| 2 抗がん剤治療について | 産婦人科 | 鏡 誠治 |
| 3 放射線治療について | 放射線治療科 診療科長 | 大栗 隆行 |
| 4 がん相談支援センターのご案内 | がん相談支援センター | 角 美穂子 |

問い合わせ先：産業医科大学病院 がんセンター

TEL 093-603-1611（内線4125、5542）

※詳細につきましては、産業医科大学病院ホームページをご覧ください。

◆介護施設「虹の丘」 デイサービス・ケアプランセンター 利用者募集◆

所在地：北九州市八幡西区光貞台3丁目13-10

営業地域：八幡西区、若松区、水巻町、遠賀町、芦屋町

産業医科大学介護施設「虹の丘」では、利用者の方が家庭的な環境の中で、快適で楽しい1日を過ごしていただけるよう、また、日常生活での自立をお手伝いできるよう、介護と介護予防の両サービスを提供して

います。さらに、利用者の方のサポートだけではなく、介護されるご家族の方の身体的・精神的な負担を軽くすることをモットーに介護サービスの提供に努めています。

ご利用相談のほか、介護でお困りの方はお気軽にご連絡ください。体験利用や見学もお待ちしております。



ホームページは、次のURLからご覧いただけます。

<http://www.uoeh-u.ac.jp/facilities/nijinooka.html>

<問合せ先> 産業医科大学介護施設「虹の丘」

TEL 093-693-1677



本誌にかかるご意見等につきましては、uoehnews@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp までお寄せください。

「産業医大通信」は産業医科大学 web サイトでもご覧いただくことができます。

次号は2017年10月発行予定です。（本誌の記事・写真などの無断転載を禁じます。）